

# 切手グループ

今回は、社会福祉協議会登録ボランティアグループの「切手グループ」をご紹介します。

あんな活動

こんなところ

みつけた！



1月中旬、社会福祉協議会（以下、社協とする）の会議室において「切手グループ」の作業に参加をしました。会の活動は、昭和59年12月に社協事務所が奈良橋から現在地に移転してから、本格的にスタートしました。毎週木曜日午前中に活動しており、市民から寄せられた使用済み切手のまわりを3～4mm残して切り取る作業をしていました。おしゃべりの口元と切り取る手の作業動作がリズムよく合って、あっという間に2時間近くが過ぎました。処理済みの切手は都内唯一となる盲・弱視に特化した老人ホーム聖明園寿荘（青梅市）に届けられます。

切手グループの活動を見学した1週間後の活動日に、切手グループの皆さんと青梅市にある特別養護盲老人ホーム聖明園を訪問しました。聖明園は青梅市根ヶ布（ねかぶ）にあり、東大和市からは車で50分程です。今回切手を届けた施設は、都内唯一の盲・弱視に特化した老人ホームで、困りごとを聴いたりしながら専門的介護サービスを提供しています。施設は、青梅駅の北方に位置した山頂にあり、緑で囲まれた施設が広がっています。



切手を業者に売却をしたお金で利用者や施設に必要な品物を購入されとのことです。市民の皆様から日本や外国の使用済、未使用の切手の寄附をお願いしたいと改めて思いました。（柴田文雄）

当日は、処理済み切手を4箱持っていきました。コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設の見学はできませんでしたが、玄関先でお渡しした際に施設の様子も伺えました。

寄附した切手については、その切手を貼り合わせ絵を作成したり、業者に売却したお金を使用し、施設の事業費や運営費に運用しているとのことでした。コロナ前は定期的に訪問していたようですが、コロナがあり3年ほど訪問できなかったとのことでした。切手グループの皆さんからは、今回を機に定期的な訪問ができるように日々の活動に取り組んでいきたいとお話がありました。（高田宗臣）

寄附した切手については、その切手を貼り合わせ絵を作成したり、業者に売却したお金を使用し、施設の事業費や運営費に運用しているとのことでした。コロナ前は定期的に訪問していたようですが、コロナがあり3年ほど訪問できなかったとのことでした。切手グループの皆さんからは、今回を機に定期的な訪問ができるように日々の活動に取り組んでいきたいとお話がありました。（高田宗臣）



切手グループの皆さん

## 【取材を終えて】

●外の冷たい風とは反対に作業を行う会員5名と見学1名は、ほっこりとそして過ぎ行く時間を感じない空間で作業をしていると思いました。そして活動状況をもっとお知らせする必要があると思いました。

東大和ボランティア運営委員 柴田 文夫

●今回、切手グループの方と会い活動の様子を見学した中で感じたことがありました。それは、一見個人活動のように見える活動ですが、メンバー全員で協力し切手を仕分け聖明園へ届けに行くという団体活動であることです。ここから、個々人の活動力が偉大であることが分かりました。

切手グループの皆さんの活動もあり、今回は段ボール箱4箱にもなる寄附切手を届けることができました。私は箱の量と、皆さんの活動意欲の高さに驚きました。

今、電子化が進んでいるため「手紙」や「切手」という文化が薄れつつあると思います。今回の見学から改めて、古切手の寄附のご協力を市民の方をお願いしたいと思いました。

東大和ボランティア運営委員 高田 宗臣